

Ⅱ 「青少年教育」

田植え・稲刈り・餅つき

米作りを一貫して学び、餅つきを楽しもう！

行橋市行橋南公民館 館長 田邊正則

1 事業名

「田植え・稲刈り・餅つき」米作りを一貫して学び、餅つきを楽しもう！

2 事業の目的

- ①毎日食べているお米が、どうやって作られるのかを知る。
- ②米作り体験を通して、お米の大切さ、米作りの大変さ、難しさを知る。
- ③餅つきを通して、もち米が餅になるまでの工程と、大変さ、楽しさを体験する。

3 事業の実施主体

青少年育成協議会、行橋南小学校

4 連携・協力機関・団体等

区長会、PTA、老人会、女性学級他

5 事業予算

50,000円

6 事業の内容

(1) 田植え

①田植え指導

田植えが行われる前日に、4年生は区長会の役員さんから、田植えについて指導を受けます。実際に稲の苗を持って、手のひらの上に置き、5本ずつ丁寧に数えてちぎり、植えるまねをして置きます。足の開きが肩幅で中腰の姿勢でとの指導がされ、田植え当日は指導に従って植えていきます。



②田植え

田植え指導を受けた4年生から順に約1時間ずつ、5年生、6年生と順に田植えを行います。田んぼの端から端まで、目印のついた縄が張られ、少しずつ移動します。目印に合わせて、苗を5本ずつ、指の第二関節位の深さに植えます。田んぼの中は泥で動きが思うようにできず、中には泥に足元をとられてしりもちをついたりもします。



(2) 稲刈り

①稲刈り指導

稲刈りが行われる前日に、4年生は区長会の役員さんから、稲刈りについて指導を受けます。稲刈りでは鎌を使うので、鎌の使い方を重点に、どうしたら安全にうまく稲刈りができるかを教わります。



②稲刈り

稲刈りも田植えと同じ、4年生から約1時間ずつ行います。稲の根元を手でつかみ鎌を手前に引きながら稲を刈っていきます。刈ったら、鎌を置いて稲を後ろに重ねていきます。稲の山ができれば、稲刈りを止め、稲を脱穀機へ運んでいき、脱穀してもらいます。



(3) 餅つき

秋に稲刈りで収穫した餅米を使って、6年生が2月に卒業記念行事として地域の方の応援を受け、餅つきを行います。前日からもち米を洗って準備しておき、当日は各クラス別に杵、臼が用意されるので、役割を分担しながら、交代で餅をついたり、まるめたり、全校児童に配るための袋づめなど行います。蒸しあがった餅米を臼に移してから最後まで、自分たちでつきあげます。



7 事業の成果

- ①児童にとって一貫した米作りを体験することで、米がどうやって作られているのかを知ることができ、その中で米の大切さ、米作りの大変さなどが分かる。
- ②田植え指導から餅つきまでを通して、地域の人とふれあうことで、地域の方の暖かい応援、指導が得られ地域の活性化も図られる。
- ③地域の方同士もお互い知ることができ、連携ができてくる。

8 今後の課題

- ①児童の父兄の参加を増やして、学校、地域、家庭の連携をさらに強めて行く。
- ②米作りから餅つきまでの知識、技術など次の世代へ引き継いでいく。



問い合わせ先

〒824-0032

行橋市南大橋2丁目3番27号

行橋市南公民館

TEL/FAX 0930-23-6700
